

## テモテへの手紙第二 第4章 2節

「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。」

昨日から今日にかけて大型台風来襲のニュースが絶え間なく流れている。公共交通がキャンセルとなり、河川の氾濫情報が流れ、住民避難の警報が流れる。時折激しい雨音が聞こえる。突然静かな時もある。

もう台風は過ぎたのかと思いきや、突然雨音が激しくなる。台風特有のまだら豪雨かもしれない。それにしても、豪雨の間におとずれる静かなときは不思議な感覚となる。台風がもたらす豪雨のなかでの静けさはより一段と際立って静まりのときを印象深くする。

みことばを宣べ伝える者には、時が良い場合もあれば、悪いこともある。悪い時の場合のほうが多い。むしろ、悪い時がほとんどと言ってよい。それだから、しっかりやりなさい、と勧める。そのうえで、さらにしっかりやるべきことを一つひとつ宣べる。最初が寛容を尽くしてである。相手の立ち位置を理解、受け止めることに尽くすことを促す。そして、教えである。それも絶えずである。そのように教えるべき真実がある。それが、絶えず責め、戒め、そして励ますことである。責めも、戒めも、勧めに通じる、将来への言葉である。絶えず励める幸いがある。

2024年8月16日